



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA SOUTH-WEST

# 広島西南ロータリークラブ会報

CELEBRATE ROTARY ~ ロータリーを祝おう ~

会長/濱田 公麿 幹事/山下 哲夫 例会場/広島全日空ホテル 広島市中区中町 7-20  
 副会長/中村 富洋 副幹事/平石 雅史 事務局/広島市中区基町 6-78 リーガロイヤルホテル広島 13F  
 会報資料委員長/山下 幸彦

## ■ 会長時間 (濱田会長)

いよいよ明日2月23日はロータリー創立100周年という記念すべき日です。全世界 116 カ国、31,936 クラブ、1,219,532 人のロータリアンがグレン・E・エステス RI 会長のテーマ「ロータリーを祝おう」のもとに“奉仕の一世紀”を迎えます。

今から100年前、1905年2月23日(木)の晩、シカゴの鋳山技師の事務所にて青年弁護士ポール・P・ハリスが3人の友人、シルベスター・シール(石炭商)、ガスターバス・E・ローア(鋳山技師)、ハイラム・ショーレー(仕立て屋)と、寛容と友情を求めて初会合を開いたのが始まりです。

以来、今日迄ロータリークラブが成長し続けてきた礎には14時間ごとに新クラブが結成され、奉仕の理想に集う私たちロータリアンが世界で善行をなす計り知れない可能性を明確に示した証と言えるのではないのでしょうか。改めてロータリーの原点に立ち返り、ポール・P・ハリスの言葉を申し上げます。

「まず会員は“寛容と親睦と友情の精神”に溢れた人でなければならない。そしてクラブ理念は“善意と寛容と理解”から奉仕へと発展してゆく基礎である。」

ロータリーの心 - 思いやりの心 - は、まさに仏教という慈悲の心です。インドでは“思いやり”と“友情”は同じ語源からきています。ロータリーという友情とはまさに慈悲の心、仏の心ではないのでしょうか。ロータリーの心に奉仕の灯を燈し、100周年を祝うとともに、新世紀への門出をお祝いいたします。

## ■ 幹事会務報告

例会変更のお知らせ

広島安佐ロータリークラブ

創立6周年記念夜間例会

とき : 3月3日(木) 18:30~

リーガロイヤルホテル広島

広島城南ロータリークラブ

創立10周年記念式典・祝賀会

とき : 4月1日(金) 17:30~

メルパルク広島

## ■ 出席報告

本日 (第890回例会 02月22日・火曜日)

|     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| 会員数 | 65名 | 出席者 | 42名 |
| 欠席者 | 23名 | ご来客 | 3名  |
| ご来賓 | 0名  | ゲスト | 0名  |

前々回(第887回例会 02月08日・火曜日)

|        |     |     |        |
|--------|-----|-----|--------|
| 会員数    | 65名 | 免除者 | 5名     |
| 出席者    | 50名 | 欠席者 | 10名    |
| メ・キャップ | 9名  | 出席率 | 98.33% |

## ■ 委員会報告

台北新東 RC 親善委員会 山本豊委員長

先般台北へ行ってまいりました。本年は当クラブが訪問をする事になっており、その打合せや周年活動、記念事業の協議を行って参りました。

## ■ スマイルボックス

自主申告 環境保全委員会

2月20日に、ビッグアーチにある台北新東 RC 友好記念梅林の清掃を実施しました。日曜日で、また寒い日にもかかわらず、会員・会員家族・米山奨学生の32名の参加をいただき無事終了しました。沢山の皆様のご参加、ご協力に感謝申し上げます。

自主申告 萬歳会員

2月23日の税理士記念日にちなんで出宝致します。

自主申告 八島会員

今月はロータリー創立記念月ですが、先週欠席しましたので遅ればせながら出宝致します。

## ■ 職業奉仕について

ロータリー情報委員会 濱本隆彦会員

「職業奉仕」について2680地区パストガバナー・田中毅氏が(2003/4)講演しておられましたので、今日はそれ抜粋して紹介したいと思います。

シカゴ・クラブで最初にできた定款には「会員の事業上の利益の増員」と、「親睦の充実」が謳われていました。ロータリーができた当時の社会環境(1905/2/23)は資本主義が花開いた時期で、過度の自由競争の下、法律に触れなければ、どんなことをしても、お金を儲けた者が勝者だといわれていた時代です。心から打ち解け合って相談し合える友人を作るために生まれたのがロータリー運動で、仲良くなったついでにそれを取引に利用して、物質的な相互扶助をすれば、お互いに事業が発展するだろうということで、ロータリアン同士の積極的な商取引、それも、原価による相互取引によってロータリアンが栄えていったわけです。ですから、一人一業種という制度があったのです。まさしくロータリーは、自分1人では掻けない背中を、車座になりながらお互いに掻き合う、いわゆるバック・スクラッチングの世界というエゴイズムに満ちた出発をしたわけです。

本年度会長テーマ

「心に奉仕の<sup>あかり</sup>灯を燈そう」

<http://hiroshima.southwest.rotary2710.net>

しかし、このロータリーのバック・スクラッチングは、内外からいろいろな批判を浴びます。シカゴ・クラブはすぐ定款を変更して、「シカゴ市の利益と振興を図り、市民としての義務を果たす」という項目を付け加えました。この時点から、物質的な相互扶助は、徐々に精神的なものに変わっていくのです。

ポール・ハリスは創始者としての才能はありましたが、残念ながら、理念の提唱には非常に疎かったため、ポスト物質的相互扶助となる新しい考え方の提唱者をスカウトする必要がありました。それが今日の話の主人公：アーサー・フレデリック・シェルドン（ミシガン大学の経営学部のマスターコースを首席で卒業した秀才）です。

1908年に入会したシェルドンはロータリアンに対する求心力となる理念を作成する難しい作業に取り掛かりました。

当時のシカゴは流れ者が集まって、無法がまかり通った町でしたから、商売は上手くいくはずもなく、雨後の筍の如く、店ができては潰れていくという状態が繰り返されていきました。しかし、そういう町の中をじっと見ていると、潰れることなしに継続的に利益をあげながら業績を伸ばしていく幾つかの事業所があること発見し、これらの事業所に共通した営業態度を総称して、シェルドンはサービスと定義したのです。

彼が定義したサービスとは何でしょうか。「適正な価格で品物や技術を顧客に提供すること」「事業所における経営者、従業員の接客態度」「十分な品揃え」「公正な広告」「取り扱い商品に対する知識」「アフターフォロー」などです。こういうことが守られている店には、もう一度行ってみようという気が起こります。リピーターが再三訪れるからこそ、事業が発展するのです。

1913年の論文の中で、「小さなサービスをすれば、小さな利益しか得られないが、大きなサービスをすれば、大きなprofits利益が得られる」と、はっきり言っています。20世紀初頭のロータリアンたちは、シェルドンの職業奉仕理念をよく理解し、当時の産業構造にマッチするようにアレンジしながら、自らの事業や業界に適用する努力をしたのです。しかし、その後50年間はその努力を怠ってきたのです。職業奉仕の原点を忘れて、ボランティア活動にのみつつを抜かしているものから、ロータリーに入っても何のメリットも得られません。メリットがないからどんどん辞めていくという悪循環を繰り返しているのではないのでしょうか。何十万円も会費をとって開催する経営セミナーだって、所詮、リピーターを獲得するための戦略戦術を教えているに過ぎないのですから、ロータリーの職業奉仕の哲学を学ぶ方がよっぽど効果的だと思います。

そういう職業奉仕の理念を表す言葉として、シェルドンが1910年に開かれた第1回ロータリークラブ連合会、シカゴ大会で述べた言葉が、He profits most who serves his fellows bestです。今、私たちが使っているモットーに、his fellowsが余分についています。これは私たちの取引相手という意味で、自分の取引相手に対して最も奉仕した者が最も見返りを受ける、儲かるということです。しかし、奉仕する対象をもっと広げる必要があるということで、1911年の第2回全米ロータリークラブ連合会、ポートランド大会で採択され、現在、私たちが使っているHe profits most who serves bestに変更されたわけです。

そこで、He profits most who serves bestはどういう意味なのかを、具体的に考えてみたいと思います。

私たちがロータリアンの身分を保っているのも、こうしたロータリーの会合に出られるのも、ひとえに自分の事業が上手くいっているからです。これは、経営者である皆さま方の力量によるところが大ですが、従業員、取引業者や下請け業者、顧客、同業者等、私たちを取り巻く全ての人たちのおかげであるので、自分が得た利益を、自分で一人じめするのではなく、こういった人たちと適正にシェアをしながら、事業を進めていけば、必ずあなたの事業は発展していくはずで、そのような経営方針をとって事業が発展していく様子を、あなたの事業所をサンプルとして実証すれば、あなたの同業者の人たちは、あなたの事業態度を真似るに違いありません。そうすれば、あなたの所属する業界全体の職業倫理が上がっていくというのが、He profits most who serves bestの本来の意味です。この考え方は今も昔も変わらない真理です。

1915年のサンフランシスコ大会で「全分野の職業人のためのロータリー道徳律」が正式承認され、1916年に、全ロータリアンに配布されました。

職業奉仕の理念が完成し、ロータリーの職業奉仕のモットーが確定し、具体的な活動指針となる道徳律（正しい職業奉仕の仕方を11条にわたって具体的に述べたもの）が完成しました。そしてそれから後のロータリー運動は、その道徳律をいかに自分の事業所や所属する業界に適用するかという運動に変わっていきます。そのためには、まず、ロータリアン自身が同業組合に入って、すなわち医者は医師会に、飲食店は食品関係の業界団体に入って、その業界の指導的立場になって、その業界に道徳律を広める活動に発展します。そういう活動を通じて、ロータリアンの企業はどんどん実業界において実力をつけてきました。その過程の1920年代に、マフィアが進出してきた時期と重なってくるわけです。世の中の悪い代表であるマフィアと、正しい代表であるロータリーが真っ向から対決します。そして、当時はほとんど立法化されていなかった商取引に関する法律を立法化すると共に、どんな危機にも耐えうる強靱な体質に企業を育てていったわけです。

そこで起こったのが世界大恐慌です。この危機に瀕して、当然ロータリアン企業にもダメージはありましたが、その率は少なかったし、彼らが業績を回復する時間は短かったということで、職業奉仕理念の正当性を身をもって実証したのです。

職業奉仕活動の受益者はロータリアンです。他の奉仕活動の受益者はロータリアンであってはならないと定められているのに反して、職業奉仕活動によって大きな恩恵を受けるのはロータリアンなのです。他の奉仕団体にはない特徴が、ロータリーの職業奉仕ならば、その職業奉仕を充分理解し、実践していきたいものです。ロータリアンとして、ロータリー運動の最も重要な目的は職業奉仕にあることを自覚しなければなりません。職業奉仕の実践こそが、自らの事業を発展させる最大の要素であり、その結果として現れるのが自らの事業と業界全体の職業倫理高揚なのです。（田中毅 ロータリーの源流より）

以上のような内容でしたが皆様はどう思われるでしょうか。

本年度会長テーマ

「心に奉仕の<sup>あかり</sup>灯を燈そう」

<http://hiroshima.southwest.rotary2710.net>